

注3

大学番号：54

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変

注1

事前伺い

京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 デザイン学専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人京都工芸繊維大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画課

職名・氏名 ソウムキカクガカリ シュニン 総務企画係 主任 フカクサ マイ 深草 舞

電話番号 075-724-7014

(夜間) 075-724-7014

F A X 075-724-7010

e-mail soumuki@jim.kit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

工芸科学研究科

＜デザイン学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 京都工芸繊維大学

(2) 大学名

京都工芸繊維大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒606-8585

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(モリサコ キヨタカ) 森迫 清貴 (平成30年4月1日)		
理事	(ツツミ ナオト) 堤 直人 (平成30年4月1日)		
	(ヨシモト マサヒロ) 吉本 昌広 (平成30年4月1日)		
	(ワタナベ ヒデキ) 渡部 英樹 (平成28年4月1日)	(イヌイ ケンイチ) 乾 賢一 (平成31年4月1日)	新規就任(元)
		(オノ ヨシロウ) 小野 芳朗 (平成30年7月1日)	新規就任(元)
研究科長	(マエダ コウジ) 前田 耕治 (平成30年4月1日)		
専攻長	(ナカ リュウスケ) 仲 隆介 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告

された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工芸科学研究科 デザイン学専攻 （博士前期課程） 修士（工学）	工学関係	年 2	人 45	年次人 0	人 90	基礎となる学部等 工芸科学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	平成30年度	令和元年度	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 45 (-) [若干名]	人 45 (-) [若干名]	人 45 (-) [若干名]	人 45 (-) [若干名]	1.09倍	-	
志願者数	63 (-) [6]	2 (-) [2]	52 (-) [4]	() []			
受験者数	60 (-) [6]	2 (-) [2]	50 (-) [4]	() []			
合格者数	51 (-) [5]	1 (-) [1]	49 (-) [3]	() []			
B 入学者数	50 (-) [5]	1 (-) [1]	48 (-) [3]	() []			
入学定員超過率 B/A	1.13		1.06				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	49 [5] (-)	1 [1] (-)	48 [3] (-)	1 [1] (-)							
2年次	/		49 [5] (-)								
計	50 [6] (-)		98 [9] (-)								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	51人	1人	平成30年度	1人	0人	就職
令和元年度	98人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		1人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{51} = \boxed{1.96} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{98} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 デザイン学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
数学系	数理応用演習	1・2前		1							4
	数理科学特論Ⅰ(集合・代数)	1・2前		2							3
	数理科学特論Ⅱ(変分法・関数解析・数値解析)	1・2前		2							3
	数理科学特論Ⅲ(力学系・マルコフ連鎖)	1・2前		2							4
	数理応用代数	1・2後		2							1
	数理応用幾何	1・2後		2							1
	数理応用解析	1・2後		2							1
	数理応用統計	1・2後		2							1
	代数学セミナー	1・2前		2							2
	幾何学セミナー	1・2前		2							3
専攻共通科目	解析学セミナー	1・2前		2							2
	確率論セミナー	1・2前		2							1
	Academic Writing	1・2前・後		1							1
	書くための英文法総仕上げ	1・2前		1							1
	Presentation Strategies	1・2前・後		1							1
	Technical English	1・2前・後		1							1
	Business Communication	1・2前		2							1
	English for International Conferences	1・2前		1							1
	TOEIC受験集中対策	1・2前・後		1							2
	Media English: Listening, Reading and Discussion	1・2後		1							1
英語系	Presentation English: Listening, Reading and Discussion	1・2前		1							1
	Academic Reading	1・2前・後		1							2
	Content and Language Integrated LearningⅠ(文脈理解)	1・2後		1							1
	Content and Language Integrated LearningⅡ(異文化コミュニケーション)	1・2後		1							1
	Content and Language Integrated LearningⅢ(グループコミュニケーション)	1・2後		1							1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
数学系	数理応用演習	1・2前		1							4
	数理科学特論Ⅰ(集合・代数)	1・2前		2							2
	数理科学特論Ⅱ(変分法・関数解析・数値解析)	1・2前		2							3
	数理科学特論Ⅲ(力学系・マルコフ連鎖)	1・2前		2							2
	数理応用代数	1・2後		2							1
	数理応用幾何	1・2後		2							1
	数理応用解析	1・2後		2							1
	数理応用統計	1・2後		2							1
	代数学セミナー	1・2前		2							1
	幾何学セミナー	1・2前		2							3
専攻共通科目	解析学セミナー	1・2前		2							2
	確率論セミナー	1・2前		2							1
	Academic Writing	1・2前・後		1							1
	書くための英文法総仕上げ	1・2前		1							1
	Presentation Strategies	1・2前・後		1							1
	Technical English	1・2前・後		1							1
	Business Communication	1・2前		2							1
	English for International Conferences	1・2前		1							1
	TOEIC受験集中対策	1・2前・後		1							2
	Media English: Listening, Reading and Discussion	1・2後		1							1
英語系	Presentation English: Listening, Reading and Discussion (未開講)	1・2前		1							1
	Academic Reading	1・2前・後		1							2
	Content and Language Integrated LearningⅠ(文脈理解)	1・2後		1							1
	Content and Language Integrated LearningⅡ(異文化コミュニケーション)	1・2後		1							1
	Content and Language Integrated LearningⅢ(グループコミュニケーション)	1・2後		1							1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1(科学と文明-現状と歴史)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー2(地球環境を考える)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー3(科学技術と倫理)	1・2後	1								1
	高等教養セミナー4(視覚認識論)	1・2後	1								1
	高等教養セミナー5(技術進歩と経済社会)	1・2後	1								1
	高等教養セミナー6(科学技術と道徳的問題)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー7(科学とメディア)	1・2後	1								1
	高等教養セミナー8(日欧比較文化論)	1・2後	1								1
	高等教養セミナー9(科学と宗教)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー10(西洋言語文化論)	1・2後	1								2
	高等教養セミナー11(日本語を考える)	1・2後	1								2
	高等教養セミナー12(東洋言語文化論)	1・2後	1								2
	高等教養セミナー13(日本近代文学)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー14(戦後知識人論)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー15(テクストと社会)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー16(多文化社会論)	1・2前	1								1
	高等教養セミナー17(教育と科学)	1・2前	1								1
高等教養講義	1・2後	1								7	
人文系	比較文学特論	1・2後	2								1
	制作思想	1・2前	2								1
	宗教文化論	1・2前	2								1
	京の伝統工芸-知美技(課題解決セミナー1)	1・2前	2								3
	テックリーダー演習Ⅰ(起業工学)	1・2前	2								6
	テックリーダー演習Ⅱ(フィールドワーク)	1・2前	1								2
	環境化学特論	1・2後	2								1
自然科学系	生体行動科学特論	1・2前	2								2
	バイオメカニクス特論	1・2後	2								3
	「ものづくり」総合プロデュース論	1・2前	2			1					2
	インターンシップⅠ	1・2前	1			11	9	2	4	1	
インターンシップⅡ	1・2前	2			11	9	2	4	1		
グローバルインターンシップⅠ	1・2前	1								1	
グローバルインターンシップⅡ	1・2前	2								1	
アカデミックインターンシップ(国内)	1・2通	2								4	
アカデミックインターンシップ(海外)	1・2通	2								1	
PBL系	グローバルイノベーションプログラムⅠ	1・2後	4			11	9	2	4	1	1
	グローバルイノベーションプログラムⅡ	1・2前	4			11	9	2	4	1	1
	実践プロセスデザインⅠ	1・2前	2								7
	実践プロセスデザインⅡ	1・2後	3								5

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1(科学と文明-現状と歴史)(多文化社会論)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー2(地球環境を考える)(教育と科学)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー3(科学技術と倫理)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー4(視覚認識論)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー5(技術進歩と経済社会)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー6(科学技術と道徳的問題)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー7(科学とメディア)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー8(日欧比較文化論)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー9(科学と宗教)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー10(西洋言語文化論)	1・2後	1									2
	高等教養セミナー11(日本語を考える)	1・2後	1									2
	高等教養セミナー12(東洋言語文化論)(未開講)	1・2後	1									1
	高等教養セミナー13(日本近代文学)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー14(戦後知識人論)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー15(テクストと社会)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー16(多文化社会論)	1・2前	1									1
	高等教養セミナー17(教育と科学)	1・2前	1									1
高等教養講義	1・2後	1									7	
人文系	比較文学特論(未開講)	1・2後	2									1
	制作思想	1・2前	2									1
	宗教文化論	1・2前	2									1
	京の伝統工芸-知美技(課題解決セミナー1)	1・2前	2									3
	テックリーダー演習Ⅰ(起業工学)	1・2前	2									5
	テックリーダー演習Ⅱ(フィールドワーク)	1・2前	1						1			1
	環境化学特論	1・2後	2									2
自然科学系	生体行動科学特論	1・2前	2									2
	バイオメカニクス特論	1・2後	2									2
	「ものづくり」総合プロデュース論	1・2前	2					1				3
	インターンシップⅠ	1・2前	1			10	11	1	1	4	1	
インターンシップⅡ	1・2前	2			10	11	1	1	4	1		
グローバルインターンシップⅠ	1・2前	1									1	
グローバルインターンシップⅡ	1・2前	2									1	
アカデミックインターンシップ(国内)Ⅰ	1・2通	1									4	
アカデミックインターンシップ(国内)Ⅱ	1・2通	1									4	
アカデミックインターンシップ(海外)	1・2通	2			1						1	
PBL系	グローバルイノベーションプログラムⅠ	1・2後	4			10	11	1	1	4	1	0
	グローバルイノベーションプログラムⅡ	1・2前	4			10	11	1	1	4	1	0
	実践プロセスデザインⅠ(未開講)	1・2前	2									6
	実践プロセスデザインⅡ(未開講)	1・2後	3									4
	産学協働プロジェクトⅠ	1・2前	1									2
国際協働プロジェクト	1・2前	1									1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
K I T 大学院科目 専攻共通科目(履修)	プロジェクト・マネジメント	1・2後	2								1	
	知的財産権論	1・2前	2								2	
	産業創出論	1・2前	2								4	
	伝統産業特論 I	1・2前	2								8	
	伝統産業特論 II	1・2後	2								8	
	ジェロントロジー入門 (超高齢社会のユニバーサルデザイン)	1・2後	2								3	
	繊維系合同研修 繊維系資格概論	1前	2								1	
	繊維系合同研修 繊維系資格概論	1・2後	2								1	
	繊維・ファイバー工学特論 I (欧州事情)	1・2前	1								1	
	繊維・ファイバー工学特論 II (欧州事情)	1・2後	1								1	
繊維・ファイバー工学特論 III (アジア事情)	1・2前	1								1		
繊維・ファイバー工学特論 IV (アジア事情)	1・2後	1								1		
繊維基礎科学 (英語版e-Learning科目)	1・2後	2								1		
小計 (76科目)			0	119	0	11	9	2	4	1	91	
デザイン系科目	伝統文化とデザイン	1・2前	2			2						
	プロダクトデザイン論	1・2前	2			1	1					
	ワークスペース計画論	1・2前	2			1						
	建築史	1・2前	2								5	
	都市史	1・2前	2								5	
	ヴィジュアルデザイン論	1・2後	2			1			1			
	インテリアデザイン論	1・2後	2			1				1		
	アドバンストコンピュータショナルデザイン	1・2後	2			1						
共創デザインアプローチ	1・2後	2			1					1		
テクノロジー系科目	色彩工学	1・2前	2			1		1				
	テレコミュニケーション技術論	1・2前	2			1						
	生活空間環境論	1・2前	2			1						
	デザイン材料論	1・2前	2								1	
技術革新とデザイン	1・2後	2			2							
マネジメント系科目	製品デザインマネジメント	1・2前	2			1						
	企業経営管理論	1・2前	2								1	
	グローバル・マーケット研究	1・2前	2								1	
	製品創成産業論	1・2前	2			1						
	国際産業構造研究	1・2後	2			1						
デザインマーケティング	1・2後	2								1		
デザイン系科目	デザイン論特論	1・2前	2			1						
	展示デザイン論	1・2前	2			3						
	感性論特論	1・2後	2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
K I T 大学院科目 専攻共通科目(履修)	プロジェクト・マネジメント	1・2後	2								1	
	デザインリサーチ論	1・2前	2			1					1	
	プロトタイピング論	1・2後	2					1				
	知的財産権論	1・2前	2								2	
	産業創出論	1・2前	2								4	
	伝統産業特論 I	1・2前	2								10	
	伝統産業特論 II	1・2後	2								3	
	ジェロントロジー入門 (超高齢社会のユニバーサルデザイン)	1・2後	2								2	
	繊維系合同研修 繊維系資格概論	1前	2								1	
	繊維系合同研修 繊維系資格概論	1・2後	2								1	
繊維・ファイバー工学特論 I (欧州事情)	1・2前	1								4		
繊維・ファイバー工学特論 II (欧州事情)	1・2後	1								4		
繊維・ファイバー工学特論 III (アジア事情)	1・2前	1								4		
繊維・ファイバー工学特論 IV (アジア事情)	1・2後	1								4		
繊維基礎科学 (英語版e-Learning科目)	1・2後	2								1		
小計 (79科目)			0	123	0	10	11	1	4	1	69	
デザイン系科目	伝統文化とデザイン	1・2前	2			2						
	プロダクトデザイン論	1・2前	2			1	1					
	ワークスペース計画論	1・2前	2			1						
	建築史	1・2前	2								4	
	都市史	1・2前	2								5	
	ヴィジュアルデザイン論	1・2後	2			1			1			
	インテリアデザイン論	1・2後	2			1				1		
	アドバンストコンピュータショナルデザイン	1・2後	2			1						
共創デザインアプローチ	1・2後	2			1					1		
テクノロジー系科目	色彩工学	1・2前	2			1	1	0				
	テレコミュニケーション技術論	1・2前	2			1				2		
	生活空間環境論	1・2前	2			1						
	デザイン材料論	1・2前	2								1	
技術革新とデザイン	1・2後	2			1	1						
マネジメント系科目	製品デザインマネジメント	1・2前	2				1					
	企業経営管理論	1・2前	2								1	
	グローバル・マーケット研究	1・2前	2								1	
	製品創成産業論	1・2前	2			1						
	国際産業構造研究	1・2後	2				1					
デザインマーケティング	1・2後	2					1			0		
デザイン系科目	デザイン論特論	1・2前	2			1						
	展示デザイン論	1・2前	2				2					
	感性論特論	1・2後	2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
P B L 系 デザイン系	プロジェクトデザインA	1前	4			10	6	1	4	2	
	プロジェクトデザインB	1後	4			10	6	1	4	2	
	グローバルイノベーションプログラム I	1・2後	4			11	9	2	4	1	1
	グローバルイノベーションプログラム II	1・2前	4			11	9	2	4	1	1
	フィジカルインタラクティブデザイン	1・2前	4			2				1	3
	ソーシャルインタラクティブデザイン	1・2後	4			1	2				3
	デザイン学特別演習 A	1・2前	1			11	9	2	4	2	
	デザイン学特別演習 B	1・2後	1			11	9	2	4	2	
	アドバンストデザインプロジェクト I	1通	2			11	9	2	4	2	
	アドバンストデザインプロジェクト II	2通	2			11	9	2	4	2	
	価値創造学演習 I	1通	4			1	3	1			
	価値創造学演習 II	2通	4			1	3	1			
博物館資料実習 I	1前	2			1	3	1				
博物館資料実習 II	1後	2			1	3	1				
博物館資料実習 III	2前	2			1	3	1				
博物館資料実習 IV	2後	2			1	3	1				
インターンシップ科目	デザイン学実務実習	1・2通	2			10	6	1	4		
	価値創造学実務実習	1・2通	2			1	3	1			
	デザイン学インターンシップ I	1通	6			11	9	2	4		
	デザイン学インターンシップ II	2通	6			11	9	2	4		
特別講義科目	デザイン学特別講義 A	1・2前	1			11	9	2	4		5
	デザイン学特別講義 B	1・2後	1			11	9	2	4		5
	ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 I (社会デザインマネジメント)	1・2通	2								3
ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 II (生活製品・空間マネジメント)	1・2通	2								3	
研究指導	特別研究 (特定課題制作又は論文)				11	9	2	4			
小計 (46科目)			16	98	0	11	9	2	4	2	38
合計 (122科目)			16	217	0	11	9	2	4	2	128
卒業要件及び履修方法											
必修科目8単位(「プロジェクトデザインA、B」または「価値創造学演習 I、II」)を修得し、所属専攻の専門教育科目の選択科目から22単位以上修得した上で、総計30単位以上修得すること。 また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題制作の審査及び最終試験に合格すること。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
P B L 系 デザイン系	プロジェクトデザインA	1前	4			9	8	0	4	2		
	プロジェクトデザインB	1後	4			9	8	0	4	2		
	グローバルイノベーションプログラム I	1・2後	4			10	11	1	4	1	0	
	グローバルイノベーションプログラム II	1・2前	4			10	11	1	4	1	0	
	dCEPセッション (M) I	1・2前	2			1	2		1		7	
	dCEPセッション (M) II	1・2前	2			1	2		1		7	
	dCEPセッション (M) III	1・2後	2			1	2		1		7	
	dCEPセッション (M) IV	1・2後	2			1	2		1		7	
	フィジカルインタラクティブデザイン	1・2前	4			2					0	5
	ソーシャルインタラクティブデザイン	1・2後	4			2	1				3	
	デザイン学特別演習 A	1・2前	1			10	11	1	4	2		
	デザイン学特別演習 B	1・2後	1			10	11	1	4	2		
アドバンストデザインプロジェクト I	1通	2			10	11	1	4	2			
アドバンストデザインプロジェクト II	2通	2			10	11	1	4	2			
インターンシップ科目	デザイン学実務実習	1・2通	2			9	8	0	4			
	価値創造学実務実習	1・2通	2			1	3	1				
	デザイン学インターンシップ I	1通	6			10	11	1	4			
	デザイン学インターンシップ II	2通	6			10	11	1	4			
特別講義科目	デザイン学特別講義 A	1・2前	1			10	11	1	4		0	
	デザイン学特別講義 B	1・2後	1			10	11	1	4		0	
	ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 I (社会デザインマネジメント)	1・2通	2								3	
ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 II (生活製品・空間マネジメント)	1・2通	2								3		
研究指導	特別研究 (特定課題制作又は論文)				10	11	1	4				
小計 (50科目)			16	106	0	10	11	1	4	2	30	
合計 (129科目)			16	229	0	10	11	1	4	2	97	
卒業要件及び履修方法												
必修科目8単位(「プロジェクトデザインA、B」または「価値創造学演習 I、II」)を修得し、所属専攻の専門教育科目の選択科目から22単位以上修得した上で、総計30単位以上修得すること。 また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題制作の審査及び最終試験に合格すること。												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
数学系	数理応用演習	1-2前		1								4
	数理科学特論Ⅰ(集合・代数)	1-2前		2								3
	数理科学特論Ⅱ(変分法・関数解析・数値解析)	1-2前		2								3
	数理科学特論Ⅲ(力学系・マルコフ連鎖)	1-2前		2								2
	数理応用代数	1-2後		2								1
	数理応用幾何	1-2後		2								1
	数理応用解析	1-2後		2								1
	数理応用統計	1-2後		2								1
	代数学セミナー	1-2前		2								2
	幾何学セミナー	1-2前		2								3
	解析学セミナー	1-2前		2								1
	確率論セミナー	1-2前		2								1
専攻科 英語系	Academic Writing	1-2前・後		1								1
	書くための英文法総仕上げ (未開講)	1-2前		1								1
	Presentation Strategies	1-2前・後		1								1
	Technical English	1-2前・後		1								1
	Business Communication	1-2前		2								1
	English for International Conferences	1-2前		1								1
	TOEIC受験集中対策	1-2前・後		1								2
	Media English: Listening, Reading and Discussion (未開講)	1-2後		1								1
	Presentation English: Listening, Reading and Discussion	1-2前		1								1
	Academic Reading	1-2前・後		1								2
	Content and Language Integrated Learning I (文脈理解) (未開講)	1-2後		1								1
	Content and Language Integrated Learning II (異文化コミュニケーション)	1-2後		1								1
Content and Language Integrated Learning III (グループコミュニケーション)	1-2後		1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1(科学と文明－現状と歴史) (未開講)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー2(地球環境を考える) (未開講)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー3(科学技術と倫理)	1-2後	1								1	
	高等教養セミナー4(視覚認識論)	1-2後	1								1	
	高等教養セミナー5(技術進歩と経済社会)	1-2後	1								1	
	高等教養セミナー6(科学技術と道徳的問題)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー7(科学とメディア)	1-2後	1								1	
	高等教養セミナー8(日欧比較文化論)	1-2後	1								1	
	高等教養セミナー9(科学と宗教)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー10(西洋言語文化論)	1-2後	1								2	
	高等教養セミナー11(日本語を考える)	1-2後	1								2	
	高等教養セミナー12(東洋言語文化論)	1-2後	1								2	
	高等教養セミナー13(日本近代文学)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー14(戦後知識人論)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー15(テックと社会)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー16(多文化社会論) (未開講)	1-2前	1								1	
	高等教養セミナー17(教育と科学) (未開講)	1-2前	1								1	
高等教養講義	1-2後	1									8	
専攻共通科目(単位)	人文系	比較文学特論	1-2後	2								1
		制作思想	1-2前	2								1
		宗教文化論	1-2前	2								1
		京の伝統工芸－知美 技(課題解決セミナー1)	1-2前	2								3
		テックリーダー演習Ⅰ(起業工学)	1-2前	2								6
		テックリーダー演習Ⅱ(フィールドワーク)	1-2前	1								2
		環境化学特論	1-2後	2								2
自然科学系	生体行動科学特論	1-2前	2								2	
	バイオメカニクス特論	1-2後	2								2	
	「ものづくり」総合プロデュース論 (未開講)	1-2前	2		0						3	
	インターンシップⅠ	1-2前	1			11	8	2	4	0		
インターンシップ系	インターンシップⅡ	1-2前	2			11	8	2	4	0		
	グローバルインターンシップⅠ	1-2前	1								1	
	グローバルインターンシップⅡ	1-2前	2								1	
	アカデミックインターンシップ(国内)Ⅰ	1-2通	1								4	
	アカデミックインターンシップ(国内)Ⅱ	1-2通	1								4	
	アカデミックインターンシップ(海外)	1-2通	2		1						1	
	PBL系	グローバルイノベーションプログラムⅠ	1-2後	4			11	8	2	4	1	1
グローバルイノベーションプログラムⅡ		1-2前	4			11	8	2	4	1	1	
実践プロセスデザインⅠ		1-2前	2								7	
実践プロセスデザインⅡ		1-2後	3								5	
国際協働プロジェクト		1-2前	1								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
K11T大学院科目 専攻共通科目(共通)	プロジェクト・マネジメント	1・2後		2								1
	知的財産権論	1・2前		2								2
	産業創出論	1・2前		2								4
	伝統産業特論 I	1・2前		2								6
	伝統産業特論 II	1・2後		2								8
	ジェロントロジー入門 (超高齢社会のユニバーサルデザイン)	1・2後		2								2
	繊維系合同研修	1前		2								1
	繊維系資格概論	1・2後		2								1
	繊維・ファイバー工学特論 I (欧州事情)	1・2前		1								4
	繊維・ファイバー工学特論 II (欧州事情)	1・2後		1								4
繊維・ファイバー工学特論 III (アジア事情)	1・2前		1								4	
繊維・ファイバー工学特論 IV (アジア事情)	1・2後		1								4	
繊維基礎科学 (英語版e-Learning科目)	1・2後		2								1	
小計 (78科目)			0	120	0	11	8	2	4	1	70	
デザイン系科目	伝統文化とデザイン	1・2前		2		2						
	プロダクトデザイン論	1・2前		2		1	1					
	ワークスペース計画論	1・2前		2		1						
	建築史	1・2前		2								4
	都市史	1・2前		2								5
	ヴィジュアルデザイン論	1・2後		2			1			1		
	インテリアデザイン論	1・2後		2		1				1		
	アドバンストコンピュータショナルデザイン	1・2後		2			1					
共創デザインアプローチ	1・2後		2		1						1	
テクノロジー系科目	色彩工学	1・2前		2		1		1				
	テレコミュニケーション技術論	1・2前		2		1						
	生活空間環境論	1・2前		2		1						
	デザイン材料論	1・2前		2								1
	技術革新とデザイン	1・2後		2		1	1					
マネジメント系科目	製品デザインマネジメント	1・2前		2			1					
	企業経営管理論	1・2前		2								1
	グローバル・マーケット研究	1・2前		2								1
	製品創成産業論	1・2前		2		1						
国際産業構造研究	1・2後		2			1						
デザインマーケティング	1・2後		2								1	
e-Learning活用科目	デザイン論特論	1・2前		2			1					
	展示デザイン論	1・2前		2			3					
	感性論特論	1・2後		2			1					
PBL系科目	プロジェクトデザインA	1前	4			10	5	1	4	2		
	プロジェクトデザインB	1後	4			10	5	1	4	2		
	グローバルイノベーションプログラム I	1・2後		4		11	8	2	4	1	1	
	グローバルイノベーションプログラム II	1・2前		4		11	8	2	4	1	1	
	フィジカルインタラクションデザイン	1・2前		4		2					0	5
	ソーシャルインタラクションデザイン	1・2後		4		2	1					2
	デザイン学特別演習A	1・2前		1		11	8	2	4	2		
	デザイン学特別演習B	1・2後		1		11	8	2	4	2		
	アドバンストデザインプロジェクト I	1通		2		11	8	2	4	2		
	アドバンストデザインプロジェクト II	2通		2		11	8	2	4	2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
PBL科目(開講)	価値創造学演習 I	1通	4			1	3	1				
	価値創造学演習 II	2通	4			1	3	1				
	博物館資料実習 I	1前		2		1	3	1				
	博物館資料実習 II	1後		2		1	3	1				
	博物館資料実習 III	2前		2		1	3	1				
	博物館資料実習 IV	2後		2		1	3	1				
	デザイン学実務実習	1・2通		2		10	5	1	4			
専門教育科目(開講)	価値創造学実務実習	1・2通		2		1	3	1				
	デザイン学インターンシップ I	1通		6		11	8	2	4			
	デザイン学インターンシップ II	2通		6		11	8	2	4			
	デザイン学特別講義 A	1・2前		1		11	8	2	4		0	
	デザイン学特別講義 B	1・2後		1		11	8	2	4		0	
	ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 I (社会デザインマネジメント)	1・2通		2							4	
	ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 II (生活製品・空間マネジメント)	1・2通		2							3	
研究指導	特別研究(特定課題制作又は論文)					11	8	2	4			
小計(46科目)			16	98	0	11	8	2	4	2	26	
合計(124科目)			16	218	0	11	8	2	4	2	92	

卒業要件及び履修方法

必修科目8単位(「プロジェクトデザインA、B」または「価値創造学演習 I、II」)を修得し、所属専攻の専門教育科目の選択科目から22単位以上修得した上で、総計30単位以上修得すること。
また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題制作の審査及び最終試験に合格すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・科目内容の見直しにより、専攻共通科目「数理科学特論Ⅲ（力学系、マルコフ連鎖）」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・科目内容の見直しにより、専攻共通科目「解析学セミナー」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専攻共通科目「高等教養講義」の教員配置を「兼任・兼任7」から「兼任・兼任8」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専攻共通科目「環境化学特論」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・科目内容の見直しにより、専攻共通科目「バイオメカニクス特論」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専攻共通科目「「ものづくり」総合プロデュース」の教員配置を「教授1、兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、専攻共通科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の教員配置を「教授11、准教授9、講師2、助教4、助手1」から「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手0」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、専攻共通科目「グローバルイノベーションプログラムⅠ」「グローバルイノベーションプログラムⅡ」の教員配置を「教授11、准教授9、講師2、助教4、助手1」から「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1」に変更。
- ・信州大学及び福井大学と共同開設している繊維ファイバー工学コース科目であり3大学による協議のうえ「アカデミックインターンシップ（国内）」について科目を分け、1単位ずつとした。
- ・担当教員の見直しにより、専攻共通科目「アカデミックインターンシップ（海外）」の教員配置に「教授1」を追加。
- ・教育プログラムの充実のため、専攻共通科目「国際協働プロジェクト」を新設。
- ・科目内容の見直しにより、専攻共通科目「伝統産業特論Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任8」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・科目内容の見直しにより、専攻共通科目「ジェロントロジー入門（超高齢社会のユニバーサルデザイン）」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専攻共通科目「繊維・ファイバー工学特論Ⅰ（欧州事情）」「繊維・ファイバー工学特論Ⅱ（欧州事情）」「繊維・ファイバー工学特論Ⅲ（アジア事情）」「繊維・ファイバー工学特論Ⅳ（アジア事情）」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専門教育科目「建築史」の教員配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・担当教員の昇任により、専門教育科目「技術革新とデザイン」の教員配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、専門教育科目「プロジェクトデザインA」「プロジェクトデザインB」「デザイン学実務実習」の教員配置を「教授10、准教授6、講師1、助教4、助手2」から「教授10、准教授5、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、専門教育科目「デザイン学特別演習A」「デザイン学特別演習B」「アドバンストデザインプロジェクトⅠ」「アドバンストデザインプロジェクトⅡ」「デザイン学インターンシップⅠ」「デザイン学インターンシップⅡ」「デザイン学特別講義A」「デザイン学特別講義B」「特別研究」の教員配置を「教授11、准教授9、講師2、助教4、助手2」から「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、専門教育科目「デザイン学特別講義A」「デザイン学特別講義B」の教員配置を「教授11、准教授9、講師2、助教4」から「教授11、准教授8、講師2、助教4」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、専門教育科目「ソーシャルインタラクションデザイン事例研究Ⅰ（社会デザインマネジメント）」「ソーシャルインタラクションデザイン事例研究Ⅱ（生活製品、空間マネジメント）」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任4」に変更。

【令和元年度】

- ・科目内容の見直しに伴い、「数理科学特論Ⅰ(集合、代数)」の教員配置を「兼3」から「兼2」に変更。
- ・科目内容・分担の見直しに伴い、「代数学セミナー」の教員配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・科目内容の見直しに伴い、「解析学セミナー」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・高等教養セミナーは連番となっているが、「高等教養セミナー1(科学と文明—現状と歴史)」の廃止に伴い、「高等教養セミナー16(多文化社会論)」を「高等教養セミナー1(多文化社会論)」に科目名変更。
- ・高等教養セミナーは連番となっているが、「高等教養セミナー2(地球環境を考える)」の廃止に伴い、「高等教養セミナー17(教育と科学)」を「高等教養セミナー2(教育と科学)」に科目名変更。
- ・教員の定年退職に伴う担当教員の見直しにより、「高等教養セミナー12(東洋言語文化論)」の教員配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・教員の定年退職に伴う担当教員の見直しにより、「高等教養講義」の教員配置を「兼8」から「兼7」に変更。
- ・科目内容・分担の見直しに伴い、「テックリーダー演習Ⅰ(起業工学)」の教員配置を「兼6」から「兼5」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「テックリーダー演習Ⅱ(フィールドワーク)」の教員配置を「兼2」から「准教授1、兼1」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「インターンシップⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「インターンシップⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「グローバルイノベーションプログラムⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1、兼1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「グローバルイノベーションプログラムⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1、兼1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・教員の定年退職に伴う科目内容・分担の見直しにより、「実践プロセスデザインⅠ」の教員配置を「兼7」から「兼6」に変更。
- ・教員の定年退職に伴う科目内容・分担の見直しにより、「実践プロセスデザインⅡ」の教員配置を「兼5」から「兼4」に変更。
- ・提供科目充実のため、「産学協働プロジェクトⅠ」を新設。
- ・提供科目充実のため、「デザインリサーチ論」を新設。
- ・提供科目充実のため、「プロトタイプ論」を新設。
- ・「知的財産権論」の担当教員を見直した。
- ・ⅠとⅡの科目内容・分担の見直しにより、「伝統産業特論Ⅰ」の教員配置を「兼6」から「兼10」に、「伝統産業特論Ⅱ」の教員配置を「兼8」から「兼3」に変更。
- ・「建築史」の担当教員を見直した。
- ・「共創デザインアプローチ」の担当教員を見直した。
- ・教員の昇任により、「色彩工学」の教員配置を「教授1、講師1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・教員の定年退職に伴う担当教員の見直しにより、「テレコミュニケーション技術論」の教員配置を「教授1」を「助教2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「デザイナーマーケティング」の教員配置を「兼1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員がサバティカル研修に伴う担当教員の見直しにより、「展示デザイン論」の教員配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「プロジェクトデザインA」の教員配置を「教授10、准教授5、講師1、助教4、助手2」から「教授9、准教授8、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「プロジェクトデザインB」の教員配置を「教授10、准教授5、講師1、助教4、助手2」から「教授9、准教授8、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「グローバルイノベーションプログラムⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1、兼1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「グローバルイノベーションプログラムⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手1、兼1」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手1」に変更。
- ・PBL科目の充実のため、「dGEPセッション(M)Ⅰ」を新設
- ・PBL科目の充実のため、「dGEPセッション(M)Ⅱ」を新設
- ・PBL科目の充実のため、「dGEPセッション(M)Ⅲ」を新設
- ・PBL科目の充実のため、「dGEPセッション(M)Ⅳ」を新設
- ・授業内容の見直しにより、「ソーシャルインタラクションデザイン」の教員配置を「教授2、準拠岡由1、兼2」から「教授2、准教授1、兼3」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学特別演習A」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学特別演習B」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「アドバンストデザインプロジェクトⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「アドバンストデザインプロジェクトⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学実務実習」の教員配置を「教授10、准教授5、講師1、助教4」から「教授9、准教授8、助教4」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学インターンシップⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4」から「教授10、准教授11、講師1、助教4」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学インターンシップⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4」から「教授10、准教授11、講師1、助教4」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学特別講義A」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4」から「教授10、准教授11、講師1、助教4」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「デザイン学特別講義B」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4」から「教授10、准教授11、講師1、助教4」に変更。
- ・授業内容の見直しにより、「ソーシャルインタラクションデザイン事例研究Ⅰ(社会デザインマネジメント)」の教員配置を「兼4」から「兼3」に変更。
- ・教員の定年退職、昇任、新規採用に伴う担当教員の見直しにより、「特別研究(特定課題制作又は論文)」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4」から「教授10、准教授11、講師1、助教4」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	120 科目	0 科目	124 科目	4 科目 [0]	131 科目 [11]	0 科目 [0]	135 科目 [11]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	Presentation English: Listening, Reading and Discussion	1	1	一般	選択	「西暦偶数年開講」のため。
2	高等教養セミナー12(東洋言語文化論)	1	1	一般	選択	担当教員2名で開講していたが、そのうち1名が平成30年度末に退職したため、次年度以降の担当教員、内容等について開講に向けて検討を行ったところ、他の高等教養セミナーに含めることとなったため、単独開講せず、廃止することとなった。
3	比較文学特論	2	1	一般	選択	「西暦偶数年開講」のため。
4	実践プロセスデザイン I	2	1	一般	選択	企業等とマッチングの結果、新設した産学協働プロジェクトやdCEPセッション(M) I～IVに本科目の内容を含め開講することとなった。
5	実践プロセスデザイン II	3	1	一般	選択	企業等とマッチングの結果、新設した産学協働プロジェクトやdCEPセッション(M) I～IVに本科目の内容を含め開講することとなった。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	高等教養セミナー1(科学と文明－現状と歴史)	1	1	一般	選択	授業内容の見直しに伴い、他の高等教養セミナーに含めることとなったため。
2	高等教養セミナー2(地球環境を考える)	1	1	一般	選択	授業内容の見直しに伴い、他の高等教養セミナーに含めることとなったため。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目N0. 1は、英語系科目であるが、未開講科目以外にも、英語の読む力・書く力などを養成する英語系科目を開講しており、学生が英語を学べる環境を維持している。また、隔年開講については、入学時に配付した教科課程表に明記している。

未開講科目N0. 2は、高等教養セミナー系科目であり、未開講科目以外に、14科目の様々な分野の科目を開講しており、デザイン以外の知識を得ることができる。

未開講科目No. 3は、上記同様、入学時に配付した教科課程表に明記しており、予め、受講できる年度について、学生が把握出来る状況にあった。

未開講科目N0. 4-5については、新設したPBL科目で同内容を含めることとしており、履修要項等で学生に周知を行っている。

廃止の2科目については、新規採用の教員による開講を予定していたが、科目内容の見直しにより、他の高等教養セミナー系の科目や自然化学系の科目に、当該科目の内容を含めて開講する方が良いとの判断をしたため、廃止することとした。廃止については、学務課のホームページを通じて周知を行っている。

未開講、廃止となる科目はいずれも、一般(教養教育)の科目であり、当該科目以外にも様々な分野の科目を開講しており、デザイン学以外の知識も得られる状況にある。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{7}{124} = \boxed{5.64} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	132,505㎡	㎡	㎡	132,505㎡			
	運動場用地	18,658㎡	㎡	㎡	18,658㎡			
	小 計	151,163㎡	㎡	㎡	151,163㎡			
	そ の 他	62,240㎡	㎡	㎡	62,240㎡			
	合 計	213,403㎡	㎡	㎡	213,403㎡			
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数			
	114,445㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	114,445㎡ (㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	福知山キャンパスにおいて、実験室が整備されたため(元)		
	55室	44 39室	306 333室	7室 (補助職員14人)	5室 (補助職員8人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	工芸科学研究科 デザイン学専攻		27 28 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数 新規購入・寄贈、除却による増減(29)(30)(元)
	工芸科学部・工芸科学研究科	408,532 [161,174] 410,861 [161,588]	8,380 [5,363] 8,400 [5,352]	2,886 [2,827] 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886	
		(408,532 [161,174] 410,861 [161,588])	(8,380 [5,363] 8,400 [5,352])	(2,886 [2,827] 2,889 [2,830])	(1,601 1,605)	(4,474 4,741)	(886)	
	計	408,532 [161,174] 410,861 [161,588]	8,380 [5,363] 8,400 [5,352]	2,886 [2,827] 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886	
	(408,532 [161,174] 410,861 [161,588])	(8,380 [5,363] 8,400 [5,352])	(2,886 [2,827] 2,889 [2,830])	(1,601 1,605)	(4,474 4,741)	(886)		
(6) 図書館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	4,893㎡	546 548		426,139 428,500				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,772㎡	武 道 場 、 弓 場 テ ニ ス コ ー ト 6 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都工芸繊維大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度	年度	
工芸科学部									京都府京都市左 京区松ヶ崎橋上 町1番地	
応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.07	-	平成18年度 改組		
応用化学課程	4	169		676	学士(工学)	1.04	平成30	平成30年度	同上	
生体分子応用化学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成26年度 改称	同上	
高分子機能工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
物質工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
生体分子工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
電子システム工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.08	-	平成18年度 改組	同上	
情報工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.02	-	平成18年度 改組	同上	
機械工学課程	4	86		344	学士(工学)	1.03	-	平成27年度 改称	同上	
機械システム工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	156		624	学士(工学)	1.02	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成26年度 改称	同上	
造形工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
上記課程共通			50	100						
先端科学技術課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
工芸科学研究科博士前期課程										
応用生物学専攻	2	40		80	修士(農学)	0.72	-	平成18年度 改組	同上	
材料創製化学専攻	2	33		66	修士(工学)	1.10	-	平成27年度 設置	同上	
材料制御化学専攻	2	32		64	修士(工学)	1.04	-	平成27年度 設置	同上	
物質合成化学専攻	2	33		66	修士(工学)	0.90	-	平成27年度 設置	同上	
機能物質化学専攻	2	32		64	修士(工学)	0.92	-	平成27年度 設置	同上	
電子システム工学専攻	2	50		100	修士(工学)	1.11	-	平成18年度 改組	同上	
情報工学専攻	2	46		92	修士(工学)	1.10	-	平成18年度 改組	同上	
機械システム工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
機械物理学専攻	2	37		74	修士(工学)	0.95	-	平成27年度 設置	同上	
機械設計学専攻	2	30		60	修士(工学)	1.06	-	平成27年度 設置	同上	
デザイン学専攻	2	45		90	修士(工学)	1.09	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
造形工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
建築設計学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	

デザイン学専攻	2	—	—	修士（工学）	—	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	2	71	142	修士（工学）又は（建築設計学）	1.08	—	平成26年度設置	同上
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	2	4	8	修士（学術）	0.75	平成29	平成29年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	2	35	70	修士（工学）	0.86	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	2	22	44	修士（工学）	0.72	—	平成22年度設置	同上
工芸科学研究科博士後期課程								
生命物質科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
バイオテクノロジー専攻	3	6	18	博士（学術）	1.44	—	平成27年度設置	同上
物質・材料化学専攻	3	13	39	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成27年度設置	同上
電子システム工学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.40	—	平成27年度設置	同上
設計工学専攻	3	10	30	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成18年度改組	同上
造形科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
デザイン学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.80	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	3	7	21	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成26年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	3	8	24	博士（学術）又は（工学）	1.12	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	18	博士（工学）	0.44	—	平成24年度設置	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜工芸科学研究科 デザイン学専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

		【平成30年度】		【令和元年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専任	教授	岡田 栄造 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	岡田 栄造 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	岡田 栄造 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	岡田 栄造 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
専任	教授	川北 真史 ＜平成30年4月＞ 学士(経済学)	川北 真史 ＜平成30年4月＞ 学士(経済学)	川北 真史 ＜平成30年4月＞ 学士(経済学)	川北 真史 ＜平成30年4月＞ 学士(経済学)
専任	教授	榑 勝彦 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	榑 勝彦 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	榑 勝彦 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	榑 勝彦 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
専任	教授	小山 恵美 ＜平成30年4月＞ 博士(工学)	小山 恵美 ＜平成30年4月＞ 博士(工学)	小山 恵美 ＜平成30年4月＞ 博士(工学)	小山 恵美 ＜平成30年4月＞ 博士(工学)
専任	教授	佐藤 哲也 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	佐藤 哲也 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	佐藤 哲也 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)	佐藤 哲也 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	松本 裕司		担当授業科目名	松本 裕司		担当授業科目名	松本 裕司
		<平成30年4月> 博士(学術)			<平成30年4月> 博士(学術)			<平成30年4月> 博士(学術)
専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文) 	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文) 	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文)
		三村 充			三村 充			三村 充
		<平成30年4月> 博士(工学)			<平成30年4月> 博士(工学)			<平成30年4月> 博士(工学)
専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文) 	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文) 	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ I ・インターンシップ II ・グローバルイノベーションプログラム I ・グローバルイノベーションプログラム II ・プロジェクトデザイン A ・プロジェクトデザイン B ・デザイン学特別演習 A ・デザイン学特別演習 B ・アドバンストデザインプロジェクト I ・アドバンストデザインプロジェクト II ・デザイン学実務実習 ・デザイン学インターンシップ I ・デザイン学インターンシップ II ・デザイン学特別講義 A ・デザイン学特別講義 B ・特別研究(特定課題制作又は論文)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**離職時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・池側准教授が教授に昇任（教員審査省略）

【令和元年度】

- ・宮里教授が定年退職。
- ・SUZUKI准教授、JAEHYUN准教授を新規採用（教員審査省略）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
7	5	研究指導教員と合わせて7名以上
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
11	9	2	4	26	10	11	1	4	26
(11)	(8)	(2)	(4)	(25)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
22	4	0			22	4	0		
(21)	(4)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	11	1	4	26	10	11	1	4	26
					[Δ1]	[2]	[Δ1]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
22	4	0			22	4	0		
					[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{26}{26} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{26} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
平成30年度、令和元年度 該当なし							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
平成30年度、令和元年度 該当なし							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{26} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	教授	宮里 勉	選択	インターンシップⅠ	①	H31.3.31付け65歳で定年退職(元)							
			選択	インターンシップⅡ	①								
			選択	グローバルイノベーションプログラムⅠ	①								
			選択	グローバルイノベーションプログラムⅡ	①								
			選択	テレコミュニケーション技術論	①								
			必修	プロジェクトデザインA	①								
			必修	プロジェクトデザインB	①								
			選択	グローバルイノベーションプログラムⅠ	①								
			選択	グローバルイノベーションプログラムⅡ	①								
			選択	デザイン学特別演習A	①								
			選択	デザイン学特別演習B	①								
			選択	アドバンスデザインプロジェクトⅠ	①								
			選択	アドバンスデザインプロジェクトⅡ	①								
			選択	デザイン学実務実習	①								
			選択	デザイン学インターンシップⅠ	①								
			選択	デザイン学インターンシップⅡ	①								
			選択	デザイン学特別講義A	①								
			選択	デザイン学特別講義B	①								
			選択	特別研究(特定課題制作又は論文)	①								
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	17	科目	選択	17	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	19	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任専任教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>定年退職教員が担当していた全ての科目について他の専任教員が担当しており、学生指導に不足はない状態であり、学生に対しては、教科課程公表の際に当該教員が退職した旨周知している。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
設 置 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工芸科学研究科 デザイン学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育システム全般について包括的に調査・分析し、企画、立案、実施する組織として、総合教育センターを設置しています。
総合教育センターは、教育プログラム部会、教育評価・FD部会、地域連携教育部会の3部会を統括しており、FD活動の実施や検討及び審議に関しては、教育評価・FD部会が中心的な役割を担っています。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は、次のとおり教育評価・FD部会を開催しました。

平成30年7月31日(火)

議題

1. 総合教育センター 教育評価・FD部会の組織及び業務内容等について
2. 平成30年度年度計画について
3. 平成30年度FD事業一覧、スケジュールについて
4. 平成30年度第1回教員FD研修会の実施について
5. 「総合教育センター教育評価・FD部会報告書2017」の原稿確認について
6. 大学院博士前期課程（修士課程）へのGPA導入について

報告

1. 平成29年度FD事業報告について
2. 平成30年度FD事業について

平成31年1月30日(水)

議題

1. 平成30年度 第2回 教員FD研修会について

報告

1. 平成30年度 第1回 教員FD研修会実施報告について【報告資料1】
2. 平成30年度FD事業報告について
3. 高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応について

なお、部会構成員は次のとおりであり、部会の出席率はほぼ100%です。

総合教育センター副センター長	1名
各副学域長	7名
各副課程長	11名
各副専攻長	13名
各副学科目長	3名
学務課長	1名
学長が指名する者	若干名
合計	36名+若干名

c 委員会の審議事項等

教育評価・FD部会の審議事項は次のとおりです。

- (1) 教育実態及び教育成果の調査方法の検討に関すること
- (2) 授業評価の実施及び分析に関すること
- (3) 教育改善についての研修会・講演会等の実施(新人教員の研修を含む)に関すること
- (4) 授業公開の実施及び分析に関すること
- (5) 教育懇談会、卒業生・修了生調査協力者会議の実施に関すること
- (6) 成績評価法の研究に関すること
- (7) 大学評価室との連携に関すること
- (8) 教育に対する自己点検・自己評価に関すること
- (9) その他関連事項

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業公開
- (2) 担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

b 実施方法

- (1) 教員相互の授業参観(授業公開)
- (2) 教員による担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

c 開催状況(教員の参加状況含む)

(1) 授業公開

- ・ 毎学期(前学期は6月、後学期は12月)、学部・大学院の全授業科目を対象として実施
- ・ 参観後は参観者・授業担当者双方がレポートを提出

■前学期/春学期の授業公開

実施期間：平成30年5月28日～6月22日

参観科目数：36科目

参観者数(延べ人数)：42名

■後学期/秋学期の授業公開

実施期間：平成30年11月12日～12月7日

参観科目数：38科目

参観者数(延べ人数)：46名

(2) 担当授業科目アンケート

- ・ 『受講者確認/成績入力Webシステム』を利用し、毎学期の成績報告に合わせてWeb上で実施

■前学期/春学期の教員による授業評価

実施期間：平成30年7月2日～8月20日

アンケート回答科目数：324科目

アンケート回答教員数：210名

アンケート回答率(科目)：55.8%

アンケート回答率(教員)：75.0%

■後学期/秋学期の教員による授業評価

実施期間：平成31年1月9日～2月18日

アンケート回答科目数：302科目

アンケート回答教員数：181名

アンケート回答率(科目)：54.6%

アンケート回答率(教員)：64.6%

(3) 教員FD研修会

■平成30年度第1回教員FD研修会

開催日：平成30年11月22日（木）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 海外教育連携事業における派遣教員による講演

内 容：海外大学において実施した教育活動の概要、海外大学と本学の教育方法の比較
（参考にすべき点、本学の優れた点など）

講演者：繊維学系 麻生祐司先生、デザイン・建築学系 池側隆之先生

第2部 講演・パネルディスカッション「障害のある学生への「合理的配慮」

～発達障害・精神障害学生への有効な支援方法とは～

講演者：藤川洋子先生（司会）

門 眞一郎先生（精神科医）

水野 修先生（指導教員）

稲葉宏幸先生（研究担当教員） 他

参加者：74名

■平成30年度第2回教員FD研修会

実施日時：平成31年3月8日（金）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 Moodle等のネットワークサービスを用いた教育に関する講演

内 容：ネットワークサービスを活用した授業の例として、Webベースの学習管理システム
Moodle、および授業を補足する解説動画の作成と使用例、さらに中丹地区社会人教育に
おけるTV会議システムを使った授業について

講演者：電気電子工学系 島崎仁司先生、情報科学センター 森真幸先生

第2部 京都発人材育成エコシステムの創り方

内 容：大学界も経済界も新しい発想での人材育成の必要性について、NPO法人グローバル人材開発
センターによる講演

講演者：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 事務局長

京都産業大学 法学研究科法政策学専攻 中谷 真憲 教授

参加者：62名

■各課程・専攻等におけるFD研修

開催日：平成30年11月22日～平成31年1月31日

開催母体：各課程、独立専攻及び学科目（全14組織）

内容：第1回教員FD研修会で配付された資料を用いた情報共有や意見交換の実施。

参加者数（参加率）：169名（57.9%）

■教員のFD活動参加率

265名（90.8%）

(4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

■大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

(1) 新任教員FD合同研修

〔新任教員を対象とした授業デザインや成績評価のためのワークショップ〕

※本学では主な参加対象を採用後3年以内の教員としている

<第1回>

日 時：2018年9月29日（土）13：00～17：15

会 場：キャンパスプラザ京都 2階 ホール

テーマ：①「大学コミュニティについて」

講師：大学コンソーシアム京都事務局

②「FDの基礎知識ー持続的な能力開発に向けてー」

講師：耳野 健二氏（京都産業大学現代社会学部教授）

③「授業デザインのための基礎知識・ワークショップ」

講師：浅田 瞳氏（華頂短期大学幼児教育学科准教授）

講師：岡本 信照氏（京都外国語大学外国語学部教授）

<第2回>

日 時：2018年10月13日（土）13：00～18：00

会 場：キャンパスプラザ京都 5階 第2演習室

テーマ：「授業設計・授業実践ワークショップ」

講師：阿部 一晴氏（京都光華女子大学キャリア形成学部教授）

<第3回>

日時：2018年11月12日（月）18：00～20：00
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室
テーマ：「成績評価のための基礎知識・ワークショップ」
講師：藤原 学 氏（龍谷大学理工学部教授）

<第4回>

日時：2019年1月21日（月）18：00～20：00
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室
テーマ：「学習支援・特別支援ワークショップ」
講師：村田 淳 氏（京都大学学生総合支援センター准教授）

<第5回>

日時：2019年2月4日（月）18：00～20：00
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室
テーマ：「学習者中心の授業ワークショップ」
講師：澤田 美恵子 氏（京都工芸繊維大学基盤科学系教授）
講師：松本 真治 氏（佛教大学文学部教授）
講師：森 希理恵 氏（平安女学院大学短期大学部保育科准教授）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

(1) 授業公開

授業公開は平成16年度から実施しており、参加者数向上のために、都度対象科目の拡大や実施期間の延長等の策を講じています。

レポートのコメントからも、参観する、あるいは参観される教員双方にとって、自らの授業方法を改めて見つめ直す端緒となり、また、関連する授業科目間の連携や補完関係を深めるための契機となっています。

(2) 担当授業科目アンケート

教員による担当授業科目アンケートは、平成20年1月に平成19年度開講授業担当者を対象に試行で実施し、その結果を踏まえ、平成20年度前学期からは毎学期末に実施しています。

平成22年度からは『受講者確認／成績入力システム』（Webシステム）を利用して、教員が担当科目の成績を報告（入力）する際に、あわせてアンケートに回答する仕組みを導入したため、回答率が大幅に向上し、以後高い水準を維持しています。

アンケートに回答する教員自身の振り返りや気づきになると共に、アンケート集計結果をWeb上で学内に公開することで、授業への有効な取り組み方について情報共有を図っています。

(3) 教員FD研修会

本学では、長年にわたって大学教育の質の向上を目的としたFD活動を行っており、その取り組みの一環として毎年教員FD研修会を開催しています。

近年、参加者数が40名程度にとどまっていたことから、平成27年度より、アンケート等で教員から要望のあったテーマを基に、年2回開催することとしました。結果的にほぼ全ての教員組織から毎回60名を超える参加があり、学内的に大きな広がりを見せました。

特に、FD部会委員（副課程長、副専攻長、副学科目長）をリーダーとして、教員FD研修会で学んだ知識やノウハウについて、資料を用いて、課程、専攻、学科目内で二次的な研修会等を実施したところ、参加者数は約200名を記録し、FD活動への高い関心を示しています。

今後も、その時々教員のニーズやトピック的な事案をテーマとして、効果的な教育方法を検討するための一助となるような研修会を実施する必要があると考えています。

(4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

大学コンソーシアム京都では、単独では実施することが困難な体系的なFD研修プログラムの実施をはじめ、さまざまな実質的なFD取り組みを実現させるため、平成20年度文部科学省「戦略的FD連携支援事業」に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」により佛教大学を代表校とする18大学・短期大学と共に京都地域におけるFD活動を推進してきました。

当該事業は平成23年度で補助金事業としては一旦終了しましたが、翌年度からはその事業成果を引き継ぎ、大学コンソーシアム加盟50大学での取組へと活動を広げていくことになりました。

特に新任教員には、大学コンソーシアム京都が主催する新任教員FD合同研修プログラムの受講を推奨しており、受講者からは「大変有意義な研修であった」「他大学の教員との交流が刺激になった」等、肯定的な感想が多く見受けられます。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

■実施の有無

本学では、平成15年度から学生による授業評価アンケートを実施しています。

■実施時期

前（春）学期：平成30年7月9日～10月10日

後（秋）学期：平成31年1月9日～4月11日

b 教員や学生への公開状況、方法等

■実施方法

本学では平成28年度より、紙媒体でのアンケートを廃止し、Web方式に移行しました。授業評価アンケートに回答していれば、当該学期の成績が確認出来る仕組みを構築したため、90%を超える高い回答率を維持しています。

加えて、事前準備、集計作業に伴う業務負担の軽減や費用の削減、教員や学生に対する早期の集計結果フィードバック、欠席者のアンケートが集計可能になるなど、多くの成果が上がりました。

平成30年度の実施状況は次のとおりです。

(1) 前（春）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 654科目

大学院 297科目

合計 951科目

アンケート回答率（科目）：学部 97.2%

大学院 79.9%

合計 91.0%

(2) 後（秋）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 613科目

大学院 254科目

合計 867科目

アンケート回答率（科目）：学部 94.89%

大学院 83.01%

合計 91.07%

■公開状況

集計結果は、次の方法で教員や学生に公開しています。

【学務課ホームページ（学生・教職員専用ページ）】

- ・回答率や全設問の回答平均値（科目名・担当教員名も公開）

【担当教員へのフィードバック】

- ・科目毎の集計表（各設問評価毎の人数、グラフなど）
- ・科目毎の回答一覧表（回答者毎の回答内訳）

【FD報告書に掲載（隔年発行）】

- ・全体回答平均値経年推移
- ・科目分類別（全学共通/専門基礎・導入/課程専門）全体平均値

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現在、社会のデザインへの期待は、「意匠（モノの造形）」に留まらず、プロダクトやグラフィック、空間といった領域を超え、第4次産業革命に伴う人工知能、ビッグデータ、IoTなどを活用した産業構造の変化によりもたらされる「新たなサービス」も含む「モノ・コト」の有り様（デザイン）にまで展開してきており、「デザインの多様化」が進んでいる。また、社会的課題の解決手段としてもデザイナーの能力が求められる機会が増えているなど、世界的にデザインの専門家の需要が高まっていると同時に、デザイナーに対して多様な社会的ニーズに対応できる能力が求められるようになってきている。

一方、既設専攻であるデザイン学、デザイン経営工学それぞれの専攻では、「デザイン」という共通点を持ちつつ、デザイン学の分野においてはアイデアの実現力（表現力）、デザイン経営工学の分野においては経営感覚、工学的知識・技術といったそれぞれの人材育成の特性を有している。デザイン学専攻とデザイン経営工学専攻を、新しいデザイン学専攻として統合改組することで、時代に応じて変化する社会的課題に対し、モノの造形に留まらず、デザイン思考の展開によって新たなサービスの創造と社会実装化を行える能力を有する人材を育成する教育を実践する。

上記の設置の趣旨・目的のもとでの達成状況に関する総括評価・所見は、以下のようである。

1. 学生の志願状況について

今年度のデザイン学専攻に対しての学生を募集は、一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試、推薦入学特別入試（3×3特別入試、大学卒業見込者、高等専門学校）と、多様な入口を用意しており、入学定員（45名）を充足している。募集人員45に対し、志願者数52（志願倍率1.1）、受験者数50（受験倍率1.1）であり、初年度に引き続き、順調に推移している。

2. 教育方法について

初年度と同様に、カリキュラムは設置申請どおり開講している。

本専攻は、デザイン分野とデザイン経営工学分野を統合し、「デザイン思考」により社会課題を解決する能力を身につけるためのデザイン教育を展開しており、詳細の教育内容に関しては、ワーキンググループを設置し、デザイン分野とデザイン経営工学分野のノウハウを融合して相乗効果を生む教育コンテンツを作成し、実践している。同時に初めての経験で見えてくる様々な課題にもワーキンググループで丁寧に対応している。2年目となる今年度も、同様の活動を積み重ねており、教員も学生も1年間の経験を経て新しい状況に慣れてきたこともあり、二つの専攻の融合の相乗効果が各所で生まれ、順調に推移している。

産業界、自治体、海外研究機関等との連携によるPBL科目（「プロジェクトデザインA、B」）では、該当の組織から、民間企業からテーマ提供を受け、学生がチームを編成し、教員、企業人等との協働によってプロジェクトを遂行しているが、2年目にあたる今年度は、株式会社富士通デザインと連携して、活発に演習を進めている。また、第3クォーターに向けて、積水化学工業株式会社と連携して準備を進めており、去年の経験を生かしてより充実した内容になってきている。

海外との連携に関しても、去年度に引き続き、スタンフォード大学と共同で、ME310を実践している（「グローバルイノベーションプログラムI、II」）。更に、KYOTO Design Labでも、世界中の有名大学とのコラボレーションプロジェクトが多数動いており、多様な参加者と入り混じって、学生達が貴重な経験を積み重ねている（「デザイン学特別演習A、B」）。

全体として、今年度も海外を含む様々な組織との連携が順調に動いており、社会と直結した多様な実践をベースとして、デザイン思考の展開によって新たなサービスの創造と社会実装化を行える能力を有する人材教育が順調に進められている。さらには全学年の学生が揃ったことにより、様々なPBLにおいて、学年を超えたチームワークが生まれ、また、分野の異なる教員の融合も進み、様々な相乗効果を生んでおり、より効果的な教育に結びついていると考える。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年3月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月末 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注） ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。